

房総史料調査会の設立にあたって

いま、日本の社会構造と国土は急速に変容しつつあります。その中で、私たちが過去から受け継ぎ、未来へと伝えるべき無数のかけがえのない文化遺産が、日に日に破壊され、消滅しています。私たち歴史学に関心を持ち、学ぶものにとって、身近の地域社会に残された文献や民俗等の史料群を散逸や破壊から護るよう努力することは、とりわけ重要な課題であり、かつ義務でもあるのではないのでしょうか。このことは、私たちがくらし、働き、学ぶ、この千葉県では、他の地域に比べて、より一層緊急の課題であるよう思われます。勿論、県をはじめ多くの市町村や大学・諸研究団体等による貴重な努力が積み重ねられてきていますが、調査や整理をめぐる科学的方法、保存や公開のための方法・施設・機関、調査に携わりうる人材のプールや養成等の諸点で、まだまだ遅れているのが現状ではないのでしょうか。こうした状況を少しでも克服するためのささやかな試みの一つとして、様々な分野の人々からなる、民間の自主的な史料調査活動・保存活動が独自に行われることが大切ではないかと考えます。自治体や大学などの枠組をこえた、オープンで民主的な史料調査活動・研究活動。私たちの身近な地域社会に残された貴重な史料について関心を持つ広汎な人々の交流の場ともなるような史料調査活動。より科学的で厳密な史料調査や保存のための方法を模索し、同時に、独自に人材を養成しうるような場でもあるような史料調査・研究活動。こうした活動を一つのイメージとして描きながら、ここに「房総史料調査会」を設立したいと思えます。趣旨をご理解のうえ、ぜひご参加下さるよう心からお願いいたします。

1986年2月12日

(『紙魚之友』第1号掲載)